

1 治安情勢

警察による治安対策が一定の成果を挙げているものの、スリ、ひったくり等の軽犯罪は依然として多数発生している。また、リビア等近隣国における法執行機能の不全等を背景として、島嶼部を含むイタリア南部に、多数の移民が短期間で押し寄せ、特別在留許可を得た者を含む多数のアフリカ系移民が都市部に引き続き流入している。

2 日本人被害例

スリ等の被害件数については、前四半期と比較して微減傾向が認められる。この理由としては、5月の大型連休において多数の旅行者が来伊したものの、年度末における旅行者数と比較して減少したことによるものと考えられる。細部の被害状況については、以下のとおり。

(1) スリ 31件（1月～3月：38件）

- ア フィレンツェ市内の路上で、通行人に前方を塞がれたことから、立ち止まっている間に、背後のバッグから旅券を盗まれた。
- イ ローマ市内の混み合った地下鉄に乗っていたところ、バッグが開いていたことから、中を確認すると旅券がなくなっていた。
- ウ ローマ・テルミニ駅構内でエレベーターに乗っていたところ、女性2名から不自然に接近された。降りた後にカバンのファスナーが開いていたことから、中を確認すると旅券・航空券がなくなっていた。
- エ フィレンツェ市内の飲食店入口に数分間並んでいたところ、入店後にカバンの中を確認すると旅券・財布がなくなっていた。
- オ フォロロマーノを観光していたところ、カバンが開いていることに気付いたため、中を確認すると旅券がなくなっていた。
- カ ナポリ市内の混み合ったバスに乗っていたところ、バッグが開いていたことから、中を確認すると旅券・クレジットカードがなくなっていた。

(2) 置き引き 13件（1月～3月：24件）

- ア ローマ市内の飲食店で夕食を摂っていたところ、気付くと隣の席に置いていたバッグが盗まれていた。
- イ ローマ市内の鉄道車内で、後部座席から見知らぬ人物に声を掛けられたため、振り向いてこれに対応していたところ、気付くと足元に置いていたカバンを盗まれていた。
- ウ ローマ・コロッセオ付近で、友人と記念撮影をしていたところ、若干目を離れた隙に、足元に置いていたバッグを盗まれた。
- エ ローマ市内の飲食店で食事を摂っていたところ、椅子の背もたれに掛けていたカバンを盗まれた。

(3) ひったくり 2件(1月～3月:4件)

ア ローマ市内の路上において、背後から接近してきた男性に、肩から提げていたカバンをひったくられた。

イ ナポリ中央駅付近の路上において、背後からバイクに乗った男性に、カバンをひったくられた。

3 殺人・強盗等凶悪犯罪例

外国人が被害者となった事件が発生したものの、日本人の被害については認められなかった。事件の概要については、以下のとおり。

(1) 殺人

ア 5月3日

ローマ市東部に流れるアニエーネ川沿いでルーマニア人男性の遺体が発見された。警察は当初、誤って川に転落した事故死として捜査を進めていたものの、男性の頸部から電気コードによるとみられる索条痕(絞め跡)が発見されたことから、現在のところ、本件を他殺に切り替えて捜査している。

イ 6月5日

ナポリ市内において、38歳男性が帰宅途中、何者かに銃撃された。被害男性は病院に搬送されたものの、その後死亡が確認されている。警察は現在のところ、組織的な犯行を視野に入れて捜査中である。

ウ 6月17日

ローマ市内の路上において、ルーマニア人男性の遺体が発見された。遺体の胸部には鋭利な刃物による刺創が認められ、現在のところ、これが致命傷になったものとみられている。その他、警察が細部を捜査中である。

(2) 強盗

6月24日、フィレンツェ市内中心部において、旅行者を対象とした強盗事件が2件発生した。詳細については以下のとおり。

ア 28歳のアメリカ人旅行者は、市内を観光していたところ、アフリカ人と見られる二人組から財布を強奪された。

イ 中国人旅行者は、トラムから降りて移動していたところ、男性二人組から所持していたバッグを強奪された。

なお、上記2件について現在のところ、警察が細部を捜査中である。

4 テロ・爆弾事件発生状況

特になし。

5 誘拐・脅迫事件発生状況
特になし。

6 対日感情の変化
特になし。

7 日本企業の安全に関する諸問題
特になし。